

藤花荘のアーティストたち

— 『社会福祉法人 愛知玉葉会 障害者支援施設 藤花荘』 —

「愛するものは愛される」を経営理念に掲げる社会福祉法人 愛知玉葉会の施設の1つに入所型の障害者支援施設・藤花荘があります。利用者は毎日の日課として、果樹園芸班、クリーン班、洗濯班、手芸班、絵画陶芸班の5つの班に分かれて作業をしています。その中で絵画陶芸班の作業指導をされている江原さんにお話をうかがいました。

岡崎市の国道1号線から1本南に入ったところに旧東海道の松並木があり、その松並木から坂を少し上がった小高い丘に藤花荘があります。生活のリズムをつくり、さらには生活の質の向上につながるよう、90人の利用者がテーマを持って何かに取り組み、作業をしています。その中で絵画陶芸班には30代～70代の8人が参加しています。

絵画や陶芸の作品はどれも一目見ると、その素朴さの中に見る者の心をつかむ何かがあることがわかります。作家の感性と心の中の叫びのようなものが一筆一筆に込められてきた作品だからでしょうか。江原さんは「作品を通して健常者とのコミュニケーションの機会になったり、障害者の社会参加につながるようになればいい」という夢を語っていただきました。

今までは主に岡崎を中心として作品展を開き発表の場としてきましたが、今年の春には高浜市にある「高浜市やきものの里かわら美術館」で「ボーダレス・アート・コレクション」と題した作品展が開催され、藤花荘の作品も出品しました。ミュージアムショップで販売した動物の陶人形は高額にもかかわらず、ほぼ完売したということでした。このことは作家にとっても、江原さんにとっても大きな自信になったそうです。「ボーダレス・アート・コレクション」のような大きな会場での作品展をきっかけに、愛知県内でも藤花荘の作家のことが認知されてきたようです。今年は愛知県内の4箇所藤花荘の作品が展示されます。お時間のある方は、ぜひお越しください。

展示会のご案内

- 「こんなかわいい雑貨店@大須モノコト」
9月12日(金)～28日(日)
名古屋市中区大須2-18-45 仁王門ビル2階
愛知県内の施設で製作されたグッズを販売
- 「第7回ふれあいアート展」
9月30日(火)～10月5日(日)
名古屋市中区栄2-2-5 電気文化会館 東ギャラリー
愛知県知的障害児者生活サポート協会会員の公募展
- 「花の中の花」展～アール・ブリュットin長久手
10月4日(土)～19日(日)
長久手市岩作中島41-1 アトリエフラワーチャイルド
愛知県内にある2つの施設による合同作品展
- 「第15回はなさかびより展」
11月5日(水)～9日(日)
岡崎市明大寺町茶園11-3 岡崎市美術館 第6展示室
藤花荘絵画陶芸班の作品展



オオオニハシ：小河勝太郎



ゾウさん：伊奈久生



ワニ：安藤昇



岡崎信用金庫資料館：安藤昇

取材を終えて

江原さんの指導で利用者の潜在能力が引き出されたことに感動しました。人は、いくつになっても褒められたり、評価されることで成長します。将来的には、器を作るボランティアとの協働も考えていきたいとのことでした。ボランティアとの新しい交流から障害者アートがより浸透していければいいと思いました。

GO!GO! ボランティア 第4回 伊藤が行く!

原動力はみんなの笑顔とやりがい



伊藤さん、前列1番左

伊藤さんより

ボランティアは「未知との遭遇」。近所にあるアトラクションと思って、好奇心で門を叩いてはいかがでしょうか？誰にでもできることはあります。難しいことは考えずに行動しましょう。自身の未知とも遭遇できるかも！

ある日の伊藤さんの1日

- 11:00 事務所入り、食品仕分け
- 12:00 お昼ごはん、雑用
- 13:00 市場の野菜到着、仕分け作業
- 14:00 食品の引取団体の対応
- 15:00 個人支援用の食品梱包と送付
- 16:00 事務処理

ボランティアでもいいし、何か他のことでもいい。とにかく何かしようかなと思っていてた時に、たまたまスーパーマーケットで手にとった『ポラみみ』。そこで「セカンドハーベスト名古屋」を見つけました。東日本大震災の時、宮城でのボランティア活動に参加していた伊藤さん。その時、炊き出しの現場で「フードバンクから食料が届いているよ」という言葉を聞いた時、「セカンドハーベスト」と書かれた名刺を何度か目にしていました。団体の活動を何となく知っていたということと自分の通いやすい場所だということ、そして、タイミングがぴったり重なり、すぐに連絡したそうです。

それから活動を始めて約1年半。最初は週1日でしたが、それが週2日になり、現在は週3日程度活動しています。通常の活動曜日に加え、ミーティングがある日、月に1回は土曜日など、活動日が増えてきたそうです。「空いている時間に、片足入れてやるのかなあと思っていたら、最近では両足が入っているなあ」と笑う伊藤さん。



届けられた大量の野菜がてきぱきと仕分けされていきます

提供された食品の仕分け、食品を持ってきてくださる団体さんや引取りにいってしゃる団体さんへの対応はもちろん、見学者や新しいボランティアへの対応など、さまざまな仕事を、てきぱきと笑顔でこなします。事務局職員の山内さんを中心に、1年以上活動しているボランティアが作業を分担し、協力しながら日々活動しているそうです。伊藤さん以外にも、自分に合うように時間を調整しながら週2～3日活動しているボランティアも多く、皆さんここで一緒に活動することを楽しんでいることが、作業の様子から伝わってきました。

仕分けの作業では、企業から提供された余剰食品や市場からもらった野菜を、日々の生活に困っている方を支援している団体・施設の規模(人数)に応じて配分します。こういった食品の仕分けなどの力仕事もありますが、意外と事務作業も多いそうです。食品の出入りの記録や、これまでに出した食品の集計などがあり、仕分け作業のない曜日などに事務作業をすることもありますが、

また、セカンドハーベスト名古屋では、料理好きなボランティアが週に1回程度、お昼ごはんを作ってくれます。そして、職員、ボランティアみんなですべてです。その際、できるだけ提供食品を使い、味や調理方法を確認し、各福祉団体のニーズにあった配布ができるよう、みんなで考えます。活動に対するやりがいと責任感に加え、こうした様々な人々との交流で生まれる楽しい時間や笑顔が、活動を長続きさせる秘訣かもしれません。

特定非営利活動法人 セカンドハーベスト名古屋... 多くの人々が日々の食事に事欠く一方で、まだ十分に食べられる食料品が大量に棄てられているという2つの現実。この社会的課題をフードバンク活動(まだ食べられるにも関わらず捨てられてしまう食品を企業・個人の方から提供していただき、生活困窮者を支援している団体・施設へ配布する)を通じて解決するために東海地方で活動している。

セカンドハーベスト名古屋ではボランティア募集中です。一緒に活動しませんか？詳しくは8ページをご覧ください。